

令和7年度 学力向上に係る効果的な取組事例

『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実を 目指した取組事例

行田市教育委員会

子供たち一人一人が「できた喜び」を味わうことができる授業実践

事例1

- 学年・教科名 小学校第6学年・算数科
- 単元名 考える力をのばそう「全体を決めて」
- 授業展開の工夫
一人一人の実態に応じた学びの場を工夫することで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図った。

導入

子供たちの活動時間を確保

見通しは最小限にする。



導入（問題の理解・見通し・課題の設定）を簡潔（5分以内）にすることで、自力解決、話し合いの時間を確保する。

展開

個別最適な学び

協働的な学び

①「個人で考える」「話し合いながら考える」「先生と一緒に考える」の
かを選択して、問題に取り組む。

③問題が解けた児童は、教室前方に置いた
タブレットに提示した発展問題に取り組む。



教師は机間指導をしながら全体の取り組み状況を把握し、「別の解き方はないか」、「どのように説明をするのか」といった深い学びにつながる声掛けをした。

自分がどの取り組み方を選択する
のかを意思表示し、自分に合った学
習の場を選択できるようにした。

まとめ

個別最適な学び

本時の思考・判断・表現の育成を目標としているため、「友達と話し合って気付いたこと」、「友達の考え方でよかったこと」を視点として示し、振り返りを行った。

②自力解決が終わったら、教室後方に
集まり、児童同士で考えを説明し合う。



事例2

- 学年・教科 小学校第4・5学年 音楽科
 - 单元名
 - ・いろいろな音のひびきを楽しもう「打楽器の音楽」(4年)
 - ・和音のひびきの移り変わりを感じ取ろう
- 『静かにねむれ』の和音で旋律づくり(5年)

○授業展開の工夫

ICT 機器を効果的に活用しながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた授業実践を図った。

導入

個別最適な学び



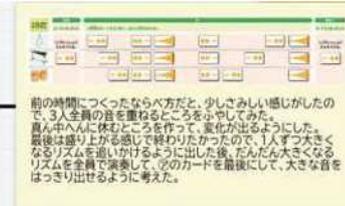
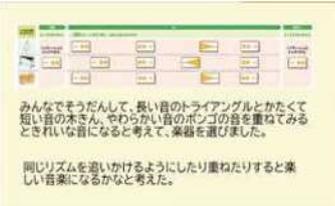
デジタル教科書を使って、個々の旋律づくりや音色の特徴を考える。



デジタルの音源で確認しながら実際の楽器で演奏の練習をする。

展開

協働的な学び



個の感じ取った楽器の音色の特徴をもとに、グループで話し合いながら、デジタル教科書を活用して音の重なりを考えながら音楽を作り上げ、演奏の練習をする。

旋律を聴き合い、アドバイスをしながら、より良いものに作り上げる。



まとめ

個別最適な学び

学習支援アプリを活用して、個々の振り返りを共有する。

グループによって一定のリズムでやっていたりみんな違ったようなリズムでやったり重なり合っていてみんなそれぞれ工夫して音楽をしていたからそれを次の音楽でどんなリズムで作ったのかなと思いつきながら聞こうと思いました

楽器の組み合わせによって、ちがう感じの音楽ができておもしろいなと思いました。

同じ楽器をつかっていても、リズムのカードやならべ方がちがうと感じがちがってきこえるのでおもしろいと思いました。

【成果と課題】

○意図を明確にししながら学習形態を工夫したり、ICTを効果的に活用したりすることで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実につなげることができた。

▲個の学習の状況を見取ることが難しい場面があったので、指導と評価の一体化を図っていきたい。

令和7年度 学力向上に係る取組事例

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進 加須市教育委員会・加須市立花崎北小学校・加須市立昭和中学校

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指した取組事例

事例1

加須市立花崎北小学校の取組

「一人の発見がみんなの学びに ～クイズでつながる読書活動～」

- 学年・教科名 第3学年・国語
- 单元名 本で知ったことをクイズにしよう
～読んで発見！「びっくりカード」を集めて、クイズ大会を開こう！～
- 身に付けさせたい力 ①いろいろな本を読み、読書のよさに気付く力
②読書をして、初めて知ったことをクイズにして伝える力

单元全体の計画

- 1 「クイズ大会を開く」という单元のゴールを知る。
- 2 「びっくりカード」を使ったクイズの作り方を知る。
- 3 自分が選んだ本を読んで「びっくりカード」を書く。
- 4 「びっくりカード」を使ってクイズを作る。
- 5 クイズ大会を開く。

協

- ・「鳥になったきょうりゅうの話」を読んで、初めて知ったことや興味をもったことを「びっくりカード」に書き出し、どんなことに興味をもったのか友達と共有した。
- ・「びっくりカード」を並べ替えて整理し、どんなクイズを作るとよいかを学級全体で考えた。
- 同じ課題で進めることで、クイズの作り方を理解できた。

個

- ・自分が選んだ本を読んで、初めて知ったことや興味をもったことを「びっくりカード」に書き出した。
- ・「びっくりカード」を並べ替えて整理し、どんなクイズを作るとよいかを考えた。
- 一人一人が興味のある本を選んでいるため、学習に意欲的に取り組むことができた。クイズの数も自由に決められるようにしたこと、児童の進度や理解に合わせて活動を進めることができた。



協

- ・クイズ大会を開き、正解だけにこだわるのではなく、友達のクイズを聞いて心に残った内容について学級全体で交流した。
- ・気になった本を読む時間も設定した。
- 友達が発表した本に興味をもち、様々な本を手にとって読む様子が見られた。
- ・全校での読書集会を発表の場に、学習の成果をみんなに伝えられるようにした。
- 全校に分かりやすいクイズを作ろうという目的意識が高まった。本の面白さが全校に伝わり、読書への関心も広がった。



成果

一人一人が学んだこと(例:自分の興味に合わせて選んだ本から発見したこと)を仲間との交流の中で生かし、その交流がさらに個々の学び(例:新しい本への関心)を深めるきっかけとなり、互いに高め合う学び合いができた。

事例 2

加須市立昭和中学校の取組
「教科の特性を踏まえ、効果的な学習形態（アクティブタイム）と振り返りを取り入れた指導の工夫」

- 学年・教科名 第3学年・国語
- 単元名 悩める後輩に贈る言葉「論語」
- 身に付けさせたい力 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする力

1 「アクティブタイム」と「振り返り」の設定

本校では、「思考力、判断力、表現力等」の育成を重点とした「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた手立てとして、アクティブタイムを設定している。学習場面に応じて、効果的な活動となるように以下のような学習形態を取り入れている。これは、協働的な学びへの一助となると考える。

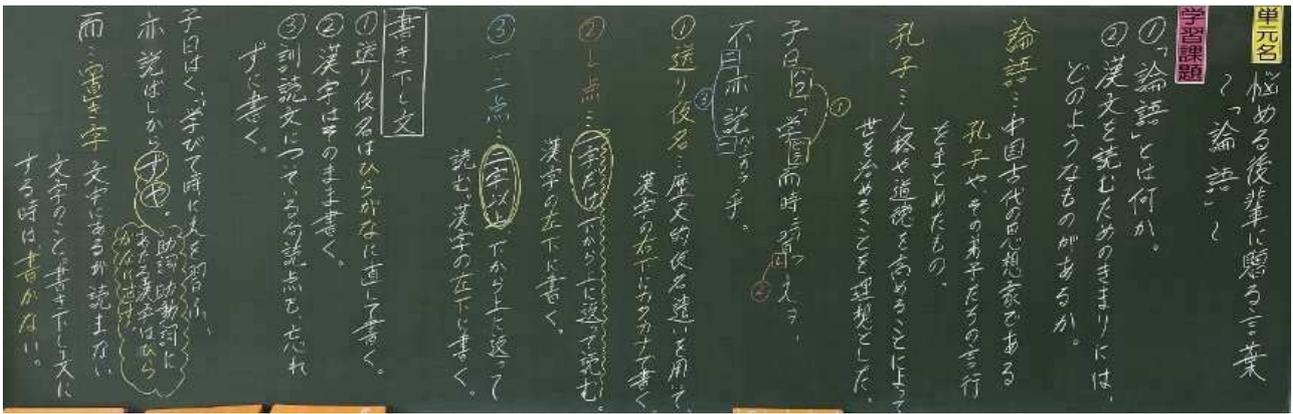
学習形態：「ペア（2人組）」・「カルテット（4人組）」・「グループ（5人以上）」
「フリー（多数）」の4種類

また、全職員の共通理解のもと、全教科、授業の終末で「学習の振り返り」を実施し、一単位時間の授業の流れの統一化を図っている。生徒の振り返りの状況を教員が適宜把握し、次時以降の指導に生かすことによって、個別最適な学びの充実に繋げている。

2 展開（第2時／全2時間）

	学習活動	学習内容・指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を振り返り、本時の学習課題を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を想起させることで、全員が安心して授業に臨めるようにする。
	学習課題 後輩の悩みを解決するための、最適な論語とは何か。	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・「論語リスト」の中から後輩の悩みを解決するための言葉を一つ選び、後輩に贈る文章構成案をタブレットで作成する。 →個人での活動（個別最適な学び） ・構成案をグループで推敲する。 →アクティブタイム【カルテット】（協働的な学び） 	<ul style="list-style-type: none"> ・論語の教えの意味について知る。 ・自分の考えをまとめる時間を十分に確保する。 ・構成案の作成が難しい生徒には、ヒントカードを配布し、全員が作成できるよう支援する。（個別最適な学び） ・推敲の仕方について知る。 ・カルテットでの意見交換を通し、孔子の考え方について積極的に自分の意見を持ち、「論語」の言葉を引用して後輩に贈る文章を書こうとしている。（協働的な学び）
終末	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめをする。 ・学習の振り返りをする。 →個人での活動（個別最適な学び） 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの生活と関連付けながら、孔子の考え方を捉えようとしている。 ・学習課題を再度振り返らせ、何が分かったか、何ができるようになったかを自分の言葉でまとめさせる。（個別最適な学び）

3 参考資料（第1時板書）



令和7年度 学力向上に係る効果的な取組事例

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を意識した授業改善
羽生市教育委員会・羽生市立羽生東小学校・羽生市立羽生南小学校

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指した取組事例

事例1

羽生市立羽生東小学校の実践

○学年 第6学年

○教科名 算数

○単元名 円の面積

○身に付けさせたい力

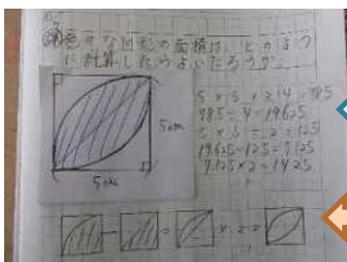
- ・円の面積について、求め方や計算で求められることを理解し、円の面積を求める公式を用いて面積を求めることができる。(知識及び技能)
- ・円などの面積の求め方を図や式を用いて考えて、説明することができる。(思考力、判断力、表現力等)

○個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実へ向けた工夫

- ①多様な方法で円を含む複合図形の面積の求め方を考える際に、図や式などを自分で選択して説明できるようにする。
- ②子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度に応じ、類似問題や応用問題など自分に合った課題に取り組みるように多様な資料を用意する。

○成果と課題

- ① 図形の全体図から部分的に図形を分けて考えていた。
まず式を立て、説明を分かりやすくするために図を用いていた。



立式

図

- ②類似問題と応用問題として、円を含む複合図形の面積の求める資料を5種類用意した。
自分のレベルに合わせて、問題を選択し取り組んでいた。

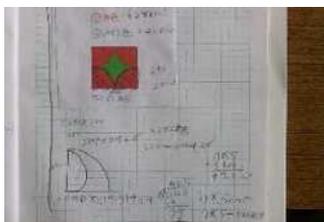
〈課題〉

- ・低位層の児童を中心に机間指導を行う必要がある。
- ・ICTを活用して、児童の考えを全体に共有した後、紹介した児童の考えの映像を画面上に残しておくことができない。(ICTの活用方法の習得が必要)
- ・立式の根拠を問われるとうまく説明できない児童も多い。穴埋め式の短文を作ることで説明の練習することも有効である。

課題と類似：数値が異なる

応用問題
円の面積

応用問題
複合図



(課題)

- ・資料の選択と準備に時間を費やす。応用問題などの資料集などがあると便利。
- ・課題だけでも理解できていない児童をどう扱うか。
- ・個々の学習の理解度に合わせてグループを分けるのも有効ではないかと考える。

事例2

羽生市立羽生南小学校の実践

○学年 第2学年

○教科名 生活科

○单元名 「うごくうごくわたしのおもちゃ」

○身に付けさせたい力

みんなで楽しみながら遊びをつくり出そうとしたり、自分の生活に生かそうとしたりする力

○個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実へ向けた工夫

- おもちゃを一人一人が制作する際に、「教科書に載っている作り方を見ながら作る」「図書室の本を見ながら作る」「教師が手本として作成した動画を見ながら作る」を選択させた。
- 制作したおもちゃの動きを毎時間タブレットで撮影し、材料や作り方を変えることによる動きの変化に気付けるようにした。
- 同じおもちゃを作った児童でグループになり、動きが良かったところやうまくいかないところを意見交流し、試行錯誤を繰り返した。
- グループ活動でもうまくいかないときには、学級全体に課題を投げかけ、アドバイスをし合う活動を行った。
- おもちゃ作りのコツやうまくいくポイントをカードに記録し、教室内に掲示した。



- 輪ゴムの数を増やしたら、よく飛んだよ。
- 太いゴムにしたら、速く走ったよ。
- おもりの重さを変えたら、よく回るようになったよ。

○成果と課題

【成果】

- 作り方を選択させたことで、それぞれのペースで自由におもちゃ作りができた。早く終わった児童は、工夫する時間を十分に確保できた。
- グループで交流を行ったり、おもちゃ作りのコツを掲示したりすることにより、一人一人のおもちゃの動きが良かった。友達の意見を参考に、進んで工夫をする児童が多く見られた。

【課題】

- タブレットの不具合で活動できない児童がいることがある。通信環境を整えることが必要である。
- 今後はグループ活動に学習支援アプリも有効に活用していきたい。

令和7年度 学力向上に係る効果的な取組事例

「自分で学ぶ時間」と「他者と協働する時間」の バランスを意識した取組

春日部市教育委員会

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指した取組事例

事例1

- 学年・教科名 小学校第2学年・国語
- 单元名 「ロボット」
- 身に付けさせたい力 「だいじなことばに気をつけて読み、分かったことを友達に知らせる」

導入

教員「どんなロボットがあると助かりますか。」
児童「警備ロボット！」



・児童の「やりたい！」を高める。
今まで学んできた教科書の内容の復習をする。その後、これからの未来においてどんなロボットが自分の身近にあれば助かると思うか児童に問いかける。

展開



教員「大切なことばをしっかりと見つけて書きましょう。」
児童「理由や具体例も入れよう。」

・自分で選択し、個別に内容をまとめる。
児童の興味・関心をもとに参考となる本を選択する。その後、今まで教科書で学んできた力を生かして、自分で選んだ本から必要な情報を読み取り、ワークシートにまとめる。

まとめ



教員「グループで確認しあいましょう。」
児童「〇〇さんのいい！」

・友達と読み合い、内容を交流する。
グループになり、自分の書いた内容を見せ合い、よいところや改善点を伝え合う。その後メンバーを変えて交流をする。

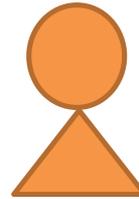
事例2

- 学年・教科名 中学校第1学年・社会
○単元名 「世界の諸地域 アジア州」
○身に付けさせたい力 「アジア州全体の地域特色について学習し、その学んだことについて生徒自身がまとめる」

導入

・既習内容の確認
アジア州について、学習した内容について覚えていることを発表する。その後、既習を生かして単元の課題について自分の言葉でまとめ、発表することを伝える。

教員「アジア州の各地域の経済発展の特徴や問題点は何でしたか。」「今まで学んだことを復習しましょう。」



展開



・単元の課題への取組方法の説明
ノートにまとめるか、プリントにまとめるか、スプレッドシートにまとめるか方法を選択する。また個人で取り組むか、グループで取り組むかも自分で選択する。そうすることでそれぞれが学び取りやすい方法で取り組めるようにする。

教員「自分の学び取りやすい方法を選択して、学習をはじめてください。」

まとめ



教員「友達の発表から生かせることがあったら積極的にメモをして自分のを改善しましょう。」

・自分のまとめと他者のまとめを比べながら聞き、自分のまとめの改善をする。発表をするだけでなく、意見や質問も出させ、発表者と聞き手の相互で理解が深まるようにする。

令和7年度 学力向上に係る効果的な取組事例

「キャリア教育・SDGsの実現に向けた教育の推進」

蓮田市教育委員会・蓮田市立黒浜北小学校・蓮田市立蓮田南中学校

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指した取組事例

事例1

- 学年・教科名 蓮田市立黒浜北小学校第6学年・学級活動（3）
- 単元名 自分だけのNext stage! プロジェクト
- 身に付けさせたい力 勉強する理由をもちながら、学習に取り組むことができる。
将来の夢や目標をもつことができる。
将来の夢や目標の実現に向かって取り組むことができる。

なりたい自分になるために、今、できることを考えよう。

悩みや迷いを受け止め
自己の可能性について
自覚を深めさせる



個別最適な学び

中学校の先輩の言葉を頼りに
新たな気づきを促すとともに
中学生になった自分をイメージさせる



協働的な学び

蓮田市では、自立的で自治的な力を
育成するため、キャリア教育を推進し
ている。

そして、質の高い学力を磨き上げる
ため、共に考える場と1人でじっくり
考える場を指導計画に明確に位置付
け、子供たちに保障している。

1人で
じっくり
考える



他者と関わることで自己理解を深めたり
過去のキャリアパスポートを広げたりしな
がら今の自分と向き合う

事例2

- 学年・教科名 蓮田市立蓮田南中学校第1学年・総合的な学習の時間
○単元名 地域に根ざした企業の話聞き、環境問題について考え提案しよう
○身に付けさせたい力

課題発見力：探究課題を自ら設定することができる。

主体性：課題解決のために、自ら進んで活動できる。

協働性：課題解決のために、友達と力を合わせることができる。

論理力：情報を分類・整理し、筋道を立てることができる。

創造性：新しい価値や組み合わせ、発想を見いだすことができる。

社会的関係形成力：よりよい社会づくりのために、地域や企業の人と協力することができる。

蓮田南中学校では、学年ごとに探究テーマを設定しており、1年生は「環境」、2年生が「福祉」、3年生が「国際理解」と、それぞれ企業と連携した活動を実施した。

企業の方に、考案した商品を提案しよう。

協働的な学び



環境に配慮した商品の開発

生徒が、企業と情報を共有することで、持続可能な社会を創る担い手としての自覚を高めていく。

共に考える

企業の方に提案



蓮田市では、「子供の未来のために、未来を子供のために」を合言葉に、未来を生きる子供たちにとって必要な「SDGsの実現に向けた教育」を充実させている。

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う

※全国学力・学習状況調査生徒質問紙より

令和5年度 59.0%

(全国63.9%)

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う

※全国学力・学習状況調査生徒質問紙より

令和7年度 84.6%

(全国75.3%)

肯定的回答

25.6ポイント up

個別最適な学びへ

- ・課題を自分事として捉える
- ・社会に提案する
- ・日常生活で実際に行動する

令和7年度 学力向上に係る効果的な取組事例

『個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実』を
目指した取組事例

越谷市教育委員会

事例1

○学年・教科名 小学校 第6学年・算数

○単 元 名 「比例の関係をくわしく調べよう」

○本時の目標 変化する2つの数量の関係を表や式、グラフで示し、その特徴を理解し、生活に活用することができる。

導入

実物の提示



6時間目
重さや厚さの関係を
使って数を数えない
で画用紙を用意でき
るのだろうか。

6時間目
一枚一枚数えずに用意
するには、どのようなこ
ろに注目して、比例の関
係を使えば良いだろう
か。



実物の提示や工夫された発問等により問題への関心を高め、取組への意欲を喚起したことにより児童は「こうすればできるのではないか」という解決の見通しを周りと一緒に話し合っていた。

本時の課題を各自で考えさせ、全体で確認することで「今日解決することは何か」を児童に把握させた。また、本時で働かせたい数学的な見方に気付かせ、解決の見通しを児童の思考を妨げない程度に確認し、自力解決に向かわせた。

展開

自力で解決
教科書で解決
友達を参考に
先生に聞く

ペアで解決
タブレットで解決
ヒントカードで解決

個別最適な学び

枚数 (枚)	10	300
重さ (g)	92	2760

$92 \div 10 = 9.2$
 $9.2 \times 300 = 2760$
 答え 2760g



協働的な学び

「自力で解決」「友達を参考に」「ヒントカードで解決」「教科書で解決」等の多様な学び方や「ノートに書きこむ」「タブレット端末に書き込む・打ち込む」など、まとめ方を個々に選択して取り組めるようにした。

タブレット端末やノート上では、根拠を基に論理的に思考することができるように内容を工夫した。見通しで表をもとにして、数量の変化の仕方(横)、2つの数量の関係(縦)に着目することを確認しているため、児童が比例の考え方をもとに3つの解法を導き出した。また、友達と協働した学びを行うことで考えの広がりや解法への理解が深まった。

終末



児童の考えを提示し、練り上げる

児童と対話しながら練り上げていくことで、クラス全体でそれぞれの解法がどのように考えられているのかを理解することができた。

ま 画用紙を数えずに用意するには、
↓
今までの比例の関係をを使って重さは枚数に比例するという条件にして表を縦に見たり、横にいたりすると求められる。

まとめは、途中まで書いて、教師が児童と対話しながらまとめるなど児童自身が考えて書いた。

《振り返りの合言葉》

⑤ 思ったこと ⑥ 疑問なこと ⑦ 知りたいこと ⑧ 学んだこと

⑤⑥の視点での振り返り

最初は重さだけかなと思っていただけと厚さがあつたか！と目から鱗でした。

⑦⑧の視点での振り返り

⑦の数がわかっていなくても他の⑧の数がわかっていれば求められるようになりました。

その他(次時、生活の中などの視点での振り返り)

②この勉強は結構普段の生活にも生かせそうだなと思いました。

振り返りは、「お・ぎ・し・ま」の合言葉を視点として、自らの学びを振り返ることができた。

事例2

○学年・教科名 小学校 第6学年・音楽

○単元名 「和音のひびきや音の重なりを感じ取ろう」

○本時の目標 つくった旋律をつなげたり重ねたりして、17小節の音楽をつくることができる。

導入



音楽は「活動を通して学ぶ教科」であるため、まず音楽活動から入っている。本時で自分が表現する音楽について演奏したり、前時の内容をみんなで確認したりしながら、「今の自分がどんな表現ができるのか」「どこまで理解しているのか」を把握した。

音楽づくりに向けて、「2つのめあて」「前時までの既習事項」「音楽キーワード5」から今日は何に着目して学んでいくのかという「解決の見通し」と「音楽づくりの約束」から「活動の見通し」を捉えさせた。

展開



個別最適な学び

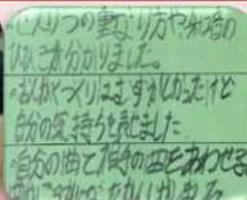
協働的な学び



二次元コードのコンテンツを活用し、作った旋律をつなげたり、重ねたりして17小節の音楽づくりを個人で行った。「何度も作り変えて、試すことができる」「すぐに共有できる」「協働して取り組める」などのICTのメリットを最大限に活用しながら、音楽づくりをする、聴く、修正する…を繰り返すことで音楽表現を追究することができた。

作った作品を低音と和音に合わせてグループ内で発表する際に、自分の思いや意図を伝えてから聞かせた。そうすることで聞き手は作品の良さや面白さを見つけて発表者に伝えるとともに、それを参考に自身の作品を修正するなど、言語活動と表現活動の往還が何度もされていた。これにより、児童は音楽表現をさらに高めていた。

終末



他の班の「思いや意図」を捉えながら、全体で多様な音楽表現の工夫に触れた。「なぜ、その表現の工夫をしたのか」について交流させることで、今後の児童の「対話内容」や「音楽表現への追究」の質を高めた。

本時の音楽的な見方を意識しながら、自らの学びを振り返らせたことで、学びの内容をより深く理解したり、学び方を考えたり、今後の学習につなげたりすることができた。また、作品を作って終わりではなく、今まで工夫した表現を学級全体で共有し最後に歌唱することで、活動を通して成長や変容を実感できるようにした。

令和7年度 学力向上に係る効果的な取組事例

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」

八潮市教育委員会・八潮市立八幡小学校

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指した取組事例

○学年・教科名 第5学年「算数」 ○単元名 比べ方を考えよう

○目標

単位量あたりの大きさの考えを基に、速さの比べ方を図や式を用いて考え、説明することができる。

【思考力, 判断力, 表現力等】

○取組の工夫

- ・児童の学びを深める「ま・つ・だ」の活用
- ・複線型授業「SHOW TIME」

つかむ
見通す

【課】 時間も距離も違うときの速さは、どのように比べればよいだろうか。

考える

自分の考えを表現しよう

- 【ま】 まず、～
- 【つ】 次に、～
- 【だ】 だから、～

取組の工夫①「ま・つ・だ」の活用

「考える」場面で「ま・つ・だ」(まずは～、次に～、だから～)を基に自分の考えを整理しながらノートに書く。

深める

取組の工夫②複線型授業「SHOW TIME」

児童一人ひとりが自分の興味や能力に応じて学習方法を複数の中から選び、主体的に学習を進めることができる。

「まず」は1秒間あたりに走った距離を数直線で考えました。「次に」から教えてほしいです。

「私は、まず、1秒間あたりに走った距離で考えて・・・次に・・・だから・・・」

「私は、まず、1mあたりにかかった時間で考えて・・・次に・・・だから・・・」

八潮スタンダードの流れ

教師と考える

友達と協働

ひとり学びを深める

個人で解決

SHOWTIME

- ① そのままひとりでかんぽる。(教科書で調べてOK)
- ② ヒントがほしい。先生からヒントをもらい、もう少しひとりで考える。
- ③ 先生と考える。
- ④ 友達と協力して考える。
- ⑤ 友達にアドバースしてほしい。
(「ま・つ・だ」のどこが分からないのかを伝える)
- ⑥ できたので、できた友達と答えや考え方を伝え合い、ちがう方法の解き方を知る。
- ⑦ できたので、アドバースが欲しい友達に教える。
(「ま・つ・だ」のどこがわからないのかを聞く)
- ⑧ ひとり学びを深める！(似たような問題を解くプリント、eライブラリなど)

まとめる

【ま】 時間も距離も違うときの速さは、1秒間あたりに走った距離や1mあたりにかかった時間を調べれば、比べることができる。

令和7年度 学力向上に係る効果的な取組事例

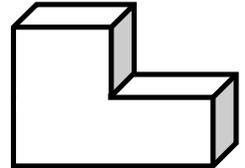
「安心して、探究に夢中になれる学び」

久喜市教育委員会・久喜市立久喜北小学校

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指した取組事例

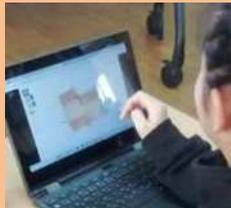
事例1 デジタル学習基盤が可能とする「安心して、探究に夢中になれる学びの姿と教師の役割」

- 学年・教科名 第6学年・算数科
- 单元名 角柱と円柱の体積（4／5時）
- 身に付けさせたい力 直方体を組み合わせた図形の体積の求め方を、角柱とみて考え、図や式を用いて説明することができる。



導入

児童は「凹凸のある立体図形も、既習の底面積×高さで求められるはず」と仮説立て、まずは、立体図形を360度から見渡せるデジタルコンテンツや具体物も用いて、凹凸のある立体図形の底面をどこで捉えるのかを考える。



教師は、クラウド環境を介して児童の図形の捉え方をタイムリーに見取り、必要に応じて具体物で個別に支援。

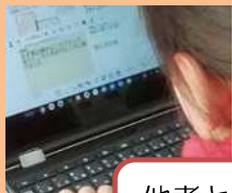
→ 一人一人が底面を捉え、既習の公式「底面積×高さ」で求積できたという状況となった上で「展開」へ。

展開

「ほんとうに底面積×高さが今回も当てはまるといえるのかな。」立てた仮説について、批判的に捉え直し、別の求積方法で論理的に説明を考える。児童一人一人が自分の考えた求積方法で探究に夢中。学習は個性化。進度も様々。

既習の公式で求めた解が正しいといえるのかについて、児童一人一人が図や式を用いて説明できているかを教師はクラウド環境を介して見取る。

→ 個別に支援してから協働へ。



他者との学び合いを促進。自分と異なる考えで説明している友達を端末で探させ、考えの共有を促す。

まとめ

ねらいに即した学習活動の精選とデジタル学習基盤を生かした授業設計により捻出された余白時間で、終末はのびのびと全体共有・適用問題・振り返り。



意図的な指名で全体共有も精選。その後、類似問題への適用化や振り返りをクラウド上で称賛し、褒め広める。

複雑な立体の体積も「底面積×高さ」で求めることができる。	私はオンラインクラスを使って複雑な立体の体積を求められました。複雑な立体の体積を求めるには「底面積×高さ」を使うと求められました。複雑な立体の体積は2つの求め方があるのです。求め方を分けたいという複雑な立体の体積を求めたいです。	123
複雑な立体でも、「底面積×高さ」の式で求めることができる。	今日の学習で、「底面積×高さ」の式を使って求めたので、複雑な立体でも、「底面積×高さ」の式を使うことがわかりました。「底面積×高さ」の式で求めたら、底面積×高さの式で求めると同じ答えが出てくるのがわかりました。今日の学習では、底面積×高さの式でも「底面積×高さ」の式で求めると、それを使って体積を求めたいです。	174



事例2

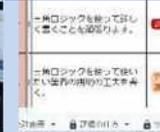
言語能力が基盤となり支える「安心して、探究に夢中になれる学びの姿と教師の役割」

- 学年・教科名 第3学年・国語科
- 単元名 食べ物ひみつブックをつくろう（6／12時）
- 身に付けさせたい力 目的を意識して、粘り強く中心となる語や文を見つけ、食べ物ひみつブックで使いたい筆者の工夫を伝えている。



導入

児童は、教師自作の失敗モデルを基に、既習である筆者の工夫を出し合う。その具体を、書き込みびっしりの全文プリントで音読しながら想起。その上で、本時の学習課題を一人一人が入力。



教師は課題について個別に見取り、必要に応じ対話。



展開

単元後半に計画した「自分で食べ物を説明する」際に使いたい「筆者の工夫」について、工夫・言葉・理由の3つの視点から言語化し、クラウド上に共有。



使い慣れた思考ツールを用いて、自分の考えを論理的に表出させる。



その工夫が「あると」「ないと」ではどう違うかという対話の視点を、教師が提案。

まとめ

終末では、課題に対するまとめと、自分の学びについての振り返りを言語化。入力後、並行読書コーナーへ次々と足を運び、夢中になって読書。



教師は、振り返りに表れた言葉から、一人一人の変容を見取り、褒め広めたり、対話して考えを深めたりする。



授業後の様子

本時の学びについて、授業後も先生と対話したがる児童たち。



休み時間も並行読書に夢中になって読み浸る児童の姿が、教室のそこかしこに。

